

わたしの「それでも」

私の宝物「直樹」と歩く道②

鴨池教会 角園美津代

教区報五三七号(昨年六月発行)で紹介した角園美津代さんと長男・直樹さん(二十七歳)の歩みを綴るシリーズの第二話。知的障害を持ちながらも聖母幼稚園を卒業した直樹さん、今度は一般の小学校で成長していく。

新年のお慶びを申し上げます。今年もお恵み豊かな一年でありますよう。

さて、いよいよ優しい先生方に恵まれた聖母幼稚園を卒業して、地域の八幡小学校に身を置かねばならない時がやってきました。就学指導の相談にも聖母幼稚園の鴨川先生が同席して下さいました。教育委員会の判断は「とりあえず経過観察」でした。幼稚園まで通った児童相談センターの林先生の所へも卒園と同時に行動しなくなりまして、鴨池小の情緒学級に八幡小から週に二回、二時間ずつ通級させて頂けるようをお願いしました。

児相の林利栄子先生は、直樹が共生コース専攻科卒業まで毎年運動会に来て下さり、見守って下さいました。

純短の文珠先生には毎週見て頂きながら小学校のスタート。私も先輩お母さんから「役員をした方が直君のためにもいいよ」とアドバイスを受け、直樹が学齢期を終えるまで一年も休まず役員を続けました。今思えば、PTAで沢山学び、鍛え

てもらったと思います。直樹は字もなかなか覚え、数も対比して数えることができません。給食も偏食が多くなかなか食べず、担任の西山先生に心配をおかけしました。毎日の日記も一字一言書いて書かせる状態です。字と言葉がつながらず「りんご」「りんご」と書いても「りんご」の意味には通じませんでした。文珠先生のアドバイスで部屋の物には名称を書いて貼りました。お勉強はまったくくついていきませんでした。皆を見ながら行動するように、運動会も最後からでしたが走り、「おどるポンポコリン」の遊戯もまわりを見ながら参加して

靴がないと裸足で帰ってきたり、色々とドキドキの毎日でしたが一年生が終了しました。毎年、担任の先生方には文珠先生に会ってもらい、直樹の接し方を聞いて頂きました。

直樹が二年生になるときに鴨川先生にお願いして月曜日から金曜日まで、十七時から十九時まで幼稚園でモンテッソーリを学ばせてもらいました。毎日自転車に乗せて送り迎えをしましたが、その時に覚えた地図などは今でも覚えています。少しづつですが、単語と言葉が結びつくようになってきました。鴨川先生と直樹は二時間、関わって頂き、

私は迎えに行った折り時々聞いてもらい優しい先生のお話を聞きながら何度涙を流したか数えきれません。

直樹は二年生になると学校にも慣れたのかウロウロしたり、顔にひっつき傷を作ったりで落ち着きませんでした。担任の岩切先生は新人ながら体当たりで頑張って下さいました。文珠先生にも色々お聞きしながら...

そんな時クラスのお母さんから「直樹がいたら勉強が遅れる。皆で話し合おう」との意見が岩切先生に寄せられました。指導教諭の梶原先生が「直君のお母さんも頑張っているんだから」と止めて下さいました。鴨川先生の前でもポロポロ泣き、文珠先生に相談し「直樹は、発達に遅れがあります。いろいろご迷惑をかけますが、どうぞ、私に直接教えて下さい」とPTAのときに皆の前で話しました。ロザリオを握りながら「泉広美先生の「そんなこと気にするな」の励ま

しはとても嬉しかったです。それでも直樹は毎日元気に学校に通いました。三年の担任の今村先生も直樹をしつかり受け入れて下さり、直樹の夕方の幼稚園通いも続きました。弟の大樹も一年生:

四年生になるとき鴨川先生が転勤になられ、寂しさで不安で涙が止まりませんでした。あとは故シスター田中孝子先生が引き継いで下さいました。

四年生の廣先生、自然に直樹を受け入れて下さり「直樹は迷惑をかけていませんか?」と聞くたび「なんで?まだ手を焼く子がいるのに。何もしてないよ」と笑って行きました。PTAなどに行くことがドキドキ心配しなくなりました。四年の目標が「一輪車に乗れるようになる」として、夏休み

に毎日練習して、二学期に乗れるようになったら、クラスの子が職員室に駆け込んできて「先生、直君が一輪車乗れたよ」とその時のクラスメイトはずっと親子共々支えて下さいました。ドッジボールも直樹には当てないと暗黙のルールを作ってくれた。そんなクラスでした。

五年はまた岩切先生、直樹はいろいろ「えっ」と思うようなことをしました。二度目の担任でしたから私はゆとりでした。PTAは執行部にも関わりました。

六年は原口先生、転勤で来られ一年目で直樹の担任でしたので大変でした。しょうが、一生懸命で、写し書きも考えて下さいました。運動会のクラス対抗リレー、子どもたちが直樹の前後に速い子を入れてリレーゾーンを短くしバトン

を渡すように考えました。いよいよ当日、直樹が抜かれないようにドキドキ祈っていました。見事順位を保って繋ぎバンザイ!一緒に過ごす子どもたちの力にあためて「すごい」と感謝した。

いろいろなことがある度に文珠先生から「大人には困ったことでも、直君には必要な階段を登っていく時期です。何かあれば説明に行きますよ」と言われ、ホッとしながらの繰り返しでした。障害児を育てるには、子どもを療育することも必要ですが、同時に親を支える人が絶対に必要なと思います。文珠先生、鴨川先生

に出会うことがなかったら直樹と生きて来られなかったかも...と今本当に思います。文珠先生は直樹が六年になるとき、山梨看護大学に行かれました。その時も不安で涙、涙でした。

でも後を永家先生、今村先生が引き継いで下さいました。文珠先生も毎年鹿兒島に来られ、今でも直樹を見ていて下さいます。

直樹のまわりの先生方、保護者、皆に支えられ小学校も卒業することができました。いよいよ中学校...。また次にお話できましたら...

天国の鍵

スーさんの「やさしいみことば」⑨

イエス様はペトロに「わたしはあなたに天の国の鍵をさずける」と仰いました(マタイ16:19)。この箇所を何気なく読んだり聞いたりますと、イエス様は天の国に入るための一本の鍵をペトロに授けると言った、と感じてしまうものです。こうしたことから、ペトロは天の国の門番のようなイメージを持たれている方が多いことでしょう。しかし、単数形と複数形を厳密に

区別する聖書、ギリシア語では、この「鍵」は複数形で表現されています。このことから、どうして天の国の鍵は二本ないしはそれ以上あるのか、という疑問が自ずと生じるものです。聖書を読むとき、「なぜ?」「という問いと「なぜなら?」という自分なりの答えを探すことは黙想にもなり得ることです。

では、小学生の子どもたちにこの質問をしたときの答えをいくつか紹介しましょう。ペトロはおつちよこちよいだから失くしてもいいように同じ鍵を何本も授けた。イエス様はペトロに地獄にいる人を天国に招き入れる使命も与えられた。天の国と地獄の門の鍵、二本を渡した。一人ひとりの生き方が違うように天の国に入る門はその人の数だけあるから、人間の数だけ鍵を渡した。天の国の鍵は魔法の鍵のようなものでどんな扉も開けられるは

文芸

俳句

鹿兒島市 徳永ノブ子
今日ひと日良き事祈る寒き朝
純心学園 山頭 信子
姉妹の日佐助活けて朝餉かな
霧島市 政 ノブ子
初ミサや朝の冷気に凛と立つ
愛光園 春山マリ子
冬寒し人のハートはどうかろう
出水市 沖 弘子
十字架に日の当たりたる淑気かな

短歌

鹿兒島純心 川上 和
初日明け雲染め分けし桜島
影落す三陸沖に初日の出愛の絆の春光やさし
鹿兒島純心 川上 和
野辺に咲く草花摘みし我れなれど言葉に
ならぬ自然の不思議
奄美市 林 常広
睦月空初稽古する合気拳体ぬくぬく礼で
終わる



教会の歴史と歩みを後世に伝えたい

平教会に記念の石碑を建立(大笠利小教会)

笠利町の平教会(大笠利小教会・松永正男神父)で、教会の歴史を刻んだ石碑が建立され、昨年十二月二十三日(金)その除幕式があった。



信仰の証として石碑を建立

平集落での宣教は中村長八神父によって一八九八年に始められた。そして一九四七年頃からは村田政茂さん宅でミサがささげられるようになり、一九五四年十二月には現在の教会が建てられた。この教会は米

国の信者の寄付金のもとになり、集落の信徒や一般の青年たちの奉仕作業という協力を得ての見事に献堂された。建設後五十七年を経過した同教会だが、地域の過疎化と高齢化により信徒の数は減少し、二〇〇八年からは所属の信徒は近くの赤木名教会でのミサに参列し、同教会でミサがささげられるのは年に三回ほどになつてきているという。

歌でクリスマスメッセージ

瀬留小教会の信徒たち

今年石碑を建立したのは、先細りとなつてきている教会の勢いに将来を心配し

「教会の歩みと歴史を後世に伝えたい」と有志たちが立ち上つたもの。この日の式典には、信徒ら三十人ほどが集まり、「歴史ある教会がいつまでも続き、信仰生活の源となるよう」祈りをささげた。

心温まる成人式

希望の星学園

昨年十二月十一日(日)龍郷町にあるディスカウントショップ入口でクリスマス・キヤロルが披露された。この試みを実施したのは瀬留小教会の信徒たちと秋名集落からの一般の小学生や大人たちで、総勢四十人が集まり、岡山先生の指導で練習を重ね、この日のお披露目となった。

知的障害児施設「希望の星学園」(田下哲朗施設長)で、一月十三日(金)成人式が挙行された。この日成人式を迎えたの

司教執務室だより

はい、私はここに...

「ネー、ヨギ アラッスムニダーッ!」(ハイ、私はここにいます!)という意味の韓国語。一月十日(火)午後二時開式のインチョン教区叙階式。約一万の信者で埋まったブジョン(富川)市の巨大な体育館に助祭候補者十五人の力強い返事が次々とこたえました。続いて司祭候補者十五人も。大きな返事に驚いたが、スツと立ち上がり、つかつかと祭壇前に進む姿は、まさにキリストの兵士としての心意気に満ちていた。全員が兵役体験者だけに、緊張の中にもきびきびと行動しながら実戦配備につく兵士の姿と重なり、思わず胸が熱くなった。もちろん、その中

には我々がアントニオ・チョン神学生とドミニコ・ソン神学生もいたのは言うまでもない。感動したもう一つの理由は、神学一年の夏休み前に行われた着衣式となる剃髪式を思い出しただけ。真新しい黒のスタータンを両手で携えて祭壇前に立ったのは五人だったか。「司祭を志す者は一歩前に出なさい」との呼びかけに「アドウ スム!」(私はここにいます!!ハイ!)と答えて一歩踏み出したときほど心が震えたことはなかった。それは、私にとつて取り消すことのできない神への宣誓に等しかったからだ。四年後の司祭叙階式でも同じ返事を求められたが、それは前回の更新に過ぎなかった。

あの十五人もきつと同じ胸の高鳴りを覚えていたに違いない。とくに鹿兒島教区の二人にとっては、年齢制限のこともあって、韓国での司祭職への道が閉ざされていただけに、長年求め続けてきた司祭職が現実味を帯びてきたことに感慨深いものがあったに違いない。司祭を敬う心が日本以上に強い風土にあつて、家族の皆さんにとつても喜びひとしおだったに違いないということは、五十人も来て下さったことでも分かる。



「来年の司祭叙階式には是非行きませう」という姪御さんをはじめ家族の皆さんをどうお迎えできるか、早くも気持ち引き締まる思いだ。しかし、叙階式巡礼参加者が、徳之島、奄美、鹿兒島と全教区に及んだことで、みなさんでお迎えできる体制がすでにでき上がっているのは嬉しい。韓国教会の熱い信仰と出あえた恵みの巡礼に感謝。



ターやサキソフオンによる演奏もあった。歌の後は主任司祭の栞尾神父からクリスマスメッセージが伝えられ、子どもたちにはプレゼントも贈られた。そして最後は皆で大きな声で「メリクリスマス」と喝さいを上げ、声高らかに主の降誕を賛美して初めてのチャレンジを終えた。雨にも見舞われた一日だったが、信者が一般の方々と協力してクリスマスメッセージを伝えることができたのは大きな喜びとなった。次回に繋げていきたいと思つている。

2月の会と催し

- 2日(木) 主の奉獻
- 4日(土) 定例司祭集会(司祭大会終わる)・奄美市
- 5日(日) ボツファイ神父命日(一九八八年)
- 11日(土) 年間第五主日
- 11日(土) 世界病者の日
- 11日(土) 教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九八四年二月十一日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡『サルヴィフィチ・ドローリス』苦しみのキリスト教的意味』を發表し、翌年二月十一日には教皇庁医療使徒評議會を開設しました。そして一九九三年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが發表されています。

病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者だけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的養成的養成、病者や苦しんでいる人への宗教的助けなども重要な課題です。

- 12日(日) 年間第六主日
- 13日(月) ハンマ神父命日(ヨルダン)
- 14日(火) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 15日(水) 中野裕明神父の信仰養成講座・教区本部・10時と19時
- 19日(日) 年間第七主日
- ▼助祭叙階式・ザビエル教会・14時
- ▼奄美の宣教司牧を考える会
- 20日(月) ホリステイツク黙想会「預言者サムエルと癒し」・ザビエル教会集会室・10時〜12時・参加費五百円
- 21日(火) 奄美大島司祭例会
- ▼ホリステイツクスピリチュアル講座「預言者サムエルと癒し」・18時30分〜20時30分・ザビエル教会集会室・参加費五百円
- 22日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎)
- ▼四旬節愛の献金(四旬節中)
- 26日(日) 四旬節第一主日
- 27日(月) 東條一浩神父命日(二〇〇一年)

宣教学校勉強会へのお誘い

この勉強会では寝占教之神父(教区本部)から約一時間「カトリックの教え」を学んだ後、ワールドユースデーや韓国での助祭叙階式などの報告を受けたり、新しい信者さんや求道者への対応などについて分かち合っています。興味のある方はどなたでもおいでください。毎月第二土曜日午後一時半から教区本部で開催しております。

(報告・津村文和)

(報告・大茂卓郎)

